

ヴェニス 光と影

吉行淳之介

篠山紀信

新潮文庫

ヴェニス

新潮文庫



平成二年八月二十五日 発行
平成二年九月三十日 刷

著 者

吉行 淳之介
よし ゆき じゆん の すけ
篠山 紀 信
しの やま き と

発 行 者

佐藤 亮 一
さ とう りやう いち

発 行 所

株式 会社
新 潮 社

郵便番号 一六二

東京都新宿区矢来町七一

電話 業務部(〇三)二六六―五一一
編集部(〇三)二六六―五四四〇

振替 東京四一八〇八番

価格はカバーに表示してあります。

乱丁・落丁本は、ご面倒ですが小社通信係宛ご送付ください。送料小社負担にてお取替えいたします。

印刷・大日本印刷株式会社 製本・憲專堂製本株式会社

© Junnosuke Yoshiyuki
Kishin Shinoyama

1980

Printed in Japan

ISBN4-10-114315-3 C0125









溜息橋(ポンテ・デイ・ソスピリ)

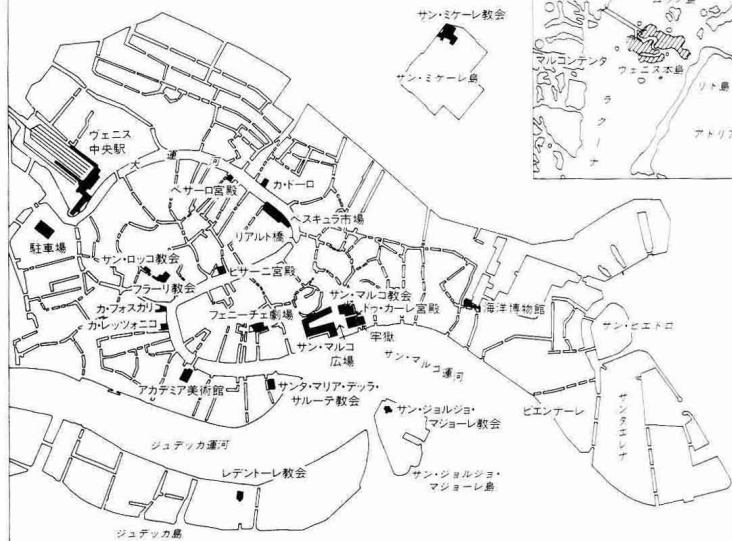


サンタ・マリア・デッラ・サルUTE教会





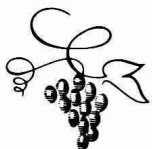
ヴェニス



新潮文庫

ヴェニス 光と影

吉行淳之介 著
篠山紀信



新潮社版

4527

ヴェニス 光と影

I

ジェット機の窓を透して、雪におおいつくされた山が、手の届きそうな近さのところに、見えている。アルプスがこんなに鮮かに眼に入ってくるのは、珍しいことだそうだ。

間もなく、マルコ・ポーロ空港に着陸することになる。アルプスの近くにヴェニス（ヴェネツィア）がある……、そういう地理が飲み込めたのは、数日前に地図を拡げたときである。ヴェニスの位置は、長靴のかたちをしたイタリア半島のもっと南のほうか、と漠然とおもっていた。

海岸線がみえてきた。干潟のような土地がひろがり、そこに幾本もの細い川が蛇行している。ヘアピンカーブのように、深い角度で曲っている箇所もある。

高度が下ってきて、「ベルト着用」と「禁煙」のサインが点された。窓ガラスに額をつけて覗きこんでいると、その川の水面に太陽が映り、その光の反射が遥かな上空まで届いて、私の眼にキラリと入った。一瞬、眩しい。曲りくねった川がつぎつぎに現れ、そのさまざまな箇所が太陽を映した。

不意に、少年のころのことを思い出した。なぜ、そんな記憶が出てきたのだろうか。長い旅が一応終る安堵感だけがあって、目的地にたいしての心の弾みは出てこない。疲労のせい

だろう。そういう澱んだ気持の中に、昔のことがすべり込んできた。その頃、私の家は崖の下にあって光の射さない薄暗さだったが、崖の上にも陰気な古い家が建っていた。その家には、丸坊主に頭を刈った中年の大男がいて、極端に怒りっぽい。なにかにつけて怒り、私の家に苦情を申し入れてくる。私の友人にスラム街の子供がいて、二人でその崖の上にある堀に跨がり、四ん這いのかたちで、そろりそろりと動いていると、

「こらあ」

と、窓から首が出てきて怒鳴った。

堀の上で、私たちは竦んだ。ようやく地上に降りると、すぐに鏡をもってきた。太陽の位置を確かめて、光を反射させる。鏡の輪郭どおりの四角い光が、その家の窓ガラスを透して天井でチラチラする。また窓が開いて、大男の丸刈りの首が出てくる。そこを光で直撃すると、物凄い怒鳴り声が飛んできた。それからときどきその悪戯をやったものだ。

その家に同じ年ごろの娘がいて、熱病にかかったせいか丸坊主になり、しばらく黒い網をかぶっていた。動作の遅い、白眼のところの多い少女だった……。

機は低空飛行になっていた。ヴェニスは潟の上につくられた島であり、その傍の陸地にマルコ・ポーロ空港がある。滑走路の細長いひろがりが見えてきて、やがて車輪が滑走路を捉える感触が伝わってきた。

同行のカメラマンの機材は、かなりの分量になる。その荷物が出てくるのを待ちながら、カメラマンはガラスで仕切られた待合室のほうを覗いて、

「いないなあ、どうしたのかな」

と、言っている。

何年前か前、東京にしばらく住んでモデルをしていたイタリアの女性が、通訳として合流する手筈てはずになっている。ナディアというその女の姿が見当らない。

税関を通して外へ出ると、待合室の隅すみのベンチに坐すわった若い女が、首を垂れ蹲うずくまるようになって、泣いていた。

「どうした」

近寄ったカメラマンが、肩をおさえた。

「みんな死んでゆく」

ナディアが日本語でつぶやいたのが、聞えた。きのう、アルプスで友人が遭難して死んだという。

間もなく、涙はおさまった。ベンチから立上ると、意外に背が高い。腰かけていたときには、小柄こがらにみえたのだが、顔が小さく脚が長いという欧米の女性の特長と、友人の死による心の萎なえのためだろう。

空港の建物を出て、左に五十メートルほど歩くと、粗末な船着場がある。渡し舟の乗場くらしい簡略さで、そこに舫しやっているモーターボートに乗る。この土地では、モーターボートはタクシーで、水上バスはつまりバスといったところか。

晴れた午後である。四人の男と一人の女と荷物を積んだモーターボートは、ヴェニスへ向